

## 各地域の取組事例

| 地域振興局 | タイトル                               | 団体名                                     |
|-------|------------------------------------|---|
| 佐久    | 「カラマツ林でみんな元気」地域福祉向上事業              | 社会福祉法人望月悠玄福祉会<br>(佐久市)                  |
| 上田    | 和太鼓によるまちづくり（伝統文化の推進、青少年育成事業）       | 長和町伝統文化育成会（長和町）                         |
| 諏訪    | 障がいがあっても生活し働いて学ぶ地域の学校づくり           | 八ヶ岳南の学校<br>(諏訪郡富士見町)                    |
| 上伊那   | 森・まち・人をつなぐイナカチプロジェクト事業             | 伊那まちの再生やるじゃん会<br>KEESプロジェクトチーム<br>(伊那市) |
| 南信州   | よこね田んぼ地域活性化事業                      | よこね田んぼ保全委員会<br>(飯田市)                    |
| 木曾    | 地元産そばを起点とする地域活性化プロジェクト             | 木曾のそば推進協議会                              |
| 松本    | 高齢者向け地域支え合い事業                      | シルバーカフェ（松本市）                            |
| 北アルプス | 食用ホオズキによる地域特産品づくり事業                | 白馬サンサン会                                 |
| 長野    | ～信州発！一杯の味噌汁プロジェクト～<br>～すべては愛から始まる～ | ながの協働ねっと（長野市）                           |
| 北信    | 温井里山活性化事業                          | 温井村づくり委員会（飯山市）                          |

## 「カラマツ林でみんな元気」地域福祉向上事業 (社会福祉法人 望月悠玄福祉会)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

障がいがあっても高齢になっても地域であたり前の暮らしを継続することが社会福祉法人望月悠玄福祉会の基本理念にある。そのためお互いに支え合える地域づくりを目指している。

障がい福祉サービスにおいては、障がいのある利用者に就労の機会を提供し、一人ひとりに合った作業種を見出し、経済的自立に向けての支援を目指している。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

| 活用年度 | 事業概要  | 支援金額  |
|------|---|-------|
| H27  | 山から不用な間伐材を運び出す森林整備活動を通して、高齢者の生きがいつくり、高校生の地域福祉へ貢献する心の育成、さらに「支え合える地域づくり」を目的に実施した。山から搬出した丸太を、障がい福祉サービス事業所「ワークハウス牧」に通所する障がい者が薪にして販売することで、障がい者の活躍の場の拡大を目指した。 | 774千円 |

### 最近の活動内容と今後の事業展開

協和共有林等地元の山林から不用な間伐材を提供していただき、その材で薪を生産販売することが、ワークハウス牧利用者の作業として定着しており、障がい者の活躍の場の拡大に繋がっている。平成29年度の薪生産販売における年間売上は75万円となり、必要経費を差し引いた全額を、利用者へ還元することで、障がい者の工賃アップに繋がっている。



【ワークハウス牧利用者が薪納品に向かう様子】

### 取組の効果

障がい者が「間伐材の有効活用」という林業の一役を担い、林業への障がい者の活躍の場を拡大することができた。

さらに山林から不用木を搬出することで、森林整備という地域貢献にも繋がっている。

### ポイント

当法人内の介護施設等に計4台の薪ストーブを設置している。障がい者が作業として薪づくりを行い、化石燃料に頼らず、施設がその薪を燃料として消費する仕組みを構築することで、「燃料の地産地消」「燃料の自給自足」という、社会福祉施設の新たなモデルとなっている。

|         |  |
|---------|--|
| 団体名     | 社会福祉法人望月悠玄福祉会（佐久市）   |
| 連絡先     | 〒384-2202 佐久市望月1729-6<br>就労継続支援B型事業所ワークハウス牧<br>TEL0267-53-6352 fax0267-53-6360 |
| メールアドレス | yuinoie@ia0.itkeeper.ne.jp   |

## 和太鼓によるまちづくり（伝統文化の推進、青少年育成事業） （長和町伝統文化育成会）

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

和太鼓の伝統文化を通して自分達の持つ伝統文化を地域に留めるのではなく、新しい視点から現代に相応しい伝統文化に育て传承する事を目的としています。

和太鼓の維持管理、演奏を通じて地域コミュニティの醸成及び青少年の健全育成に役立たせることを目的とした団体です。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

| 活用年度 | 事業概要  | 支援金額     |
|------|---|----------|
| H26  | <ul style="list-style-type: none"> <li>和太鼓演奏の舞台の開催。開催に合わせた、町による特産品・奨励品の販売</li> <li>児童・生徒と在留外国人の打楽器演奏を中心とした異文化交流の実施</li> <li>太鼓の修理</li> </ul>                                  | 789 千円   |
| H27  | <ul style="list-style-type: none"> <li>和太鼓演奏の舞台の開催。開催に合わせた、町による特産品・奨励品の販売</li> <li>町内及び近郊で活躍している芸能サークルとの交流</li> <li>太鼓ケースの購入</li> </ul>                                       | 1,210 千円 |
| H28  | <ul style="list-style-type: none"> <li>和太鼓演奏の舞台の開催。開催に合わせた、町による特産品・奨励品の販売、町内で活躍する芸術家の作品展示</li> <li>「和のスヌーズレン事業」として介護施設や病院等において演奏を実施</li> <li>抱え太鼓及びケース、法被、ユニホームの購入</li> </ul> | 1,390 千円 |

### 最近の活動内容と今後の事業展開

現在は、町内外のイベントに参加して和太鼓の普及に努めている。福祉施設にも慰問をして入居者の方々にも喜んでいただいている。

今後も町内外のイベントに参加したり、福祉施設等に慰問に伺い伝統ある和太鼓の迫力、楽しさ、面白さを伝えていく。

子供達も、施設の慰問に伺いお年寄りと関わり、いい体験をしている。



【老人保健施設での演奏の様子】

### 取組の効果

町内外のイベントでは町の活性化につながっている。

施設等でも入居者の方々も元気になっていただいている。

これからも個々の練習をしっかりと行い、皆さんに喜んでいただける舞台を作っていきたい。

### ポイント

個々の成長と多くの方々の協力があって続けられている。

団体名 長和町伝統文化育成会（長和町）  
連絡先 長和町和田 1866-8  
090-9858-7955

## 障がいがあっても生活し働いて学ぶ地域の学校づくり (八ヶ岳南の学校)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

養護学校を卒業し一般就職したものの、会社都合や自己都合で離職した障がい者が増える中、富士見町の田んぼや畑を借り、地元特産の作物であるエゴマやルバーブを栽培し、販売するなどの活動を通して、再就職に挑戦する。

地元のボランティアの協力を得ながら、労働の意義やコミュニケーション力を学ぶ学校のような活動拠点を作り、地域の活性化にもつなげる。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

| 活用年度 | 事業概要                      | 支援金額  |
|------|---------------------------|-------|
| H25  | 陶芸教室、絵画展、コンサート、映画会、特産物の栽培 | 743千円 |
| H26  | 木工教室、料理教室、コンサート、絵画の展覧会など  | 877千円 |
| H27  | 木工教室、絵画の展覧会、地元音楽家のコンサートなど | 876千円 |

### 最近の活動内容と今後の事業展開

・収穫祭、陶芸教室、木工教室、地元の特産物の栽培・販売などを続けてきた。また、障がい者の要望で普通自動車免許の学習会を始めた。そのような活動の中、地元のソーラーパネルの草刈りやボランティアを頼まれるなど、障がい者の活動が広がっている。

・今後は、地元根差した活動を継続しながら、障がいのある人々の生活の場、余暇活動の場を支援していきたい。



【地域にあるソーラーパネルの草刈り】

### 取組の効果

- ・一年に一回開催している『南の学校晩秋描く祭』には、地元の演奏者のコンサート、障がい者の絵画展、畑で栽培した作物を使った料理などを企画し、大盛況で、地域の方々も楽しみにしている。
- ・木工教室に参加した方々から、椅子やテーブルなどの特別注文を受け、活動の支援になっている。
- ・障がい者の普通自動車免許の学習を始めたところ、希望者が集まり、ほぼ毎週（土）か（日）に行い、何人かは免許を取得し、仕事や生活に役立てている。

### ポイント

- ・年に一度の『南の学校晩秋描く祭』で、日頃の感謝を地域の人々に伝えてきた。
- ・普段仕事を頑張っている障がい者の悩みを聞きながら、ストレス発散のための余暇活動をした。（カラオケ、温泉、プール、キャンプ、バーベキュー、旅行など）
- ・活動資金を得るために、地元の特産物（エゴマ、ルバーブ）などを栽培し販売してきた。
- ・活動が口コミで広がり、会員も5人増えた。

団体名  
八ヶ岳南の学校（諏訪郡富士見町）  
連絡先  
代表 関 祐二、電話 [09072672011](tel:09072672011)

## 森・まち・人をつなぐイナカチプロジェクト事業 (伊那まちの再生やるじゃん会)

### 団体紹介 (私たちが目指しているもの)

伊那谷産のアカマツを使った、製品づくりをしており、山主→木こり→製材所→木工所→商店と、すべて近い距離にあることから、関わるそれぞれが笑顔になれる循環を構築したいと考えている。そして、地元の木が資源として認められ、地域の木を使うということが豊かだと感じられる価値観を醸成し、自分たちの地域を誇りに思い、地元愛を醸成し、持続可能な地域をつくることを目標としている。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

| 活用年度 | 事業概要   | 支援金額     |
|------|--|----------|
| H27  | 里山と街部が近い距離にある伊那の特性を活かし、里山の資源としての木を街部で活用することにより、森林保全と商店街の活性化を両立させる仕組みづくりとしてイベント等を実施 | 2,133 千円 |

### 最近の活動内容と今後の事業展開

毎月一回開催される「いなまち朝マルシェ」で「KEESで遊ぼうをコーナー(※)」を開催し、地域の木魅力を伝えている。また、県の子どもの居場所の木質化事業で、保育園、幼稚園に採用され、一層子どもたちに遊んでもらえる機会を得ることができた。新商品、KEESミニ、KEESBOX作りキットなどを開発し、現在銀座NAGANOでも展示販売して頂いている。



【KEESで遊ぼうコーナーの様子】

### 取組の効果

KEESの認知度が向上するとともに、間伐材や森に目を向けてくれる方が増えたと実感している。また、子どもたちにお話をする機会も頂いていることから、未来の大人が積極的に地元の木を使うライフスタイルを醸成している。他の団体からの貸出の依頼も多く、伝える場が増えている。

### ポイント

KEESは森林の問題を商店街とともに解決していくという試みであることから、他の地域課題を解決しようとする団体との交流、横のつながりも多く、楽しく地域課題を解決できる環境にあることが、特徴と言える。

一方で、事務局の人件費を捻出するまでのビジネスに発展していないことが課題ではあるが、その都度のアルバイト代などは、捻出できていることから、ボランティアベースの団体より持続可能であると感じている。

(※) KEES(キーズ)・同会が製作した木のキット。木製遊具として子どもが安全に遊べるほか、木の魅力を直接感じることができる。

|        |   |
|--------|---|
| 団体名    | 伊那まちの再生やるじゃん会<br>KEESプロジェクトチーム (伊那市)  |
| 連絡先    | 代表 平賀裕子 伊那市荒井25<br>電話番号 0265-96-0438  |
| ホームページ | <a href="https://www.facebook.com/keesproject">https://www.facebook.com/keesproject</a> |



## よこね田んぼ地域活性化事業

## よこね田んぼ保全委員会

## 団体紹介（私たちが目指しているもの）

棚田百選に認定されたよこね田んぼは、昔の懐かしい田園風景を今に伝える貴重な棚田で、県内外から多くの観光客が訪れている。保全委員会は、拓かれた地域社会と四季折々に見せる美しい景観を守るために、多世代、農村と都市が繋がることを目指し、棚田の保全活動を行っている。

## 地域発 元気づくり支援金の活用状況

標識看板の設置や地域住民によるコスモス植栽・支障木伐採等により景観向上が図られた。また、テントを整備し、観光ツアーやイベント開催時に、農産物等の販売所や休憩所として活用した。

| 活用年度 | 事業概要   | 支援金額                |
|------|--|---------------------|
| H27  | <ul style="list-style-type: none"> <li>案内標識や管理看板の設置</li> <li>荒廃している休耕田へのコスモスの作付け（景観整備）</li> <li>観光ツアーやイベント開催用のテント整備</li> </ul> | 887 千円              |
| H30  | <ul style="list-style-type: none"> <li>展望台までの遊歩道の整備工事</li> </ul>   | 1,648 千円<br>(交付決定額) |

## 最近の活動内容と今後の事業展開

## 1 遊歩道整備

展望台までの遊歩道整備とともに、棚田周辺のウォーキングマップを作成。また、整備後の遊歩道の維持管理を地区のシルバーグループ等に依頼し、就労の場としていく。

## 2 地域住民と協働した活動の拡大

伐採竹木の搬出・活用、保全会員による観光ガイド養成、米を使った特産品の販売体制づくりを通じて、地域住民が主体となった組織活動を発展させていく。



【遊歩道整備の様子】

## 取組の効果

## 1. 棚田の景観向上

継続して環境保全を行うことで、観光客から好評を得られ、展望台が「信州ふるさとの見える丘」の認定を受けた。

## 2 地域資源への愛着心醸成、環境保全への機運醸成

観光ツアーや農作業体験等の各種イベントは、都市間交流・世代間交流の場となり、ふるさとへの愛着心とともに観光受入れへの機運醸成の機会となっている。



【商品化したよこね米】

## ポイント

保全活動という基本方針はそのままに、新しい企画やイベントなどを試みながら活動を維持・発展させていくことで、発足 20 周年を迎えた。

## 1. 活動基盤維持・発展のための取組

- ・「よこね米」のブランド化（米・米粉販売、よこね米（風さやか 100%）日本酒試験醸造）
- ・市への出生届記念品（よこね米）提供による協力金（平成 30 年 4 月～）

・棚田オーナー会員の募集（2 年目）、企業スポンサーの公募（2 年目）による活動経費や会員確保

## 2. 観光誘客・PR への取組

- ・市観光課や観光公社とのツアー企画
- ・案山子コンテストやフォトコンテストの実施

団体名 よこね田んぼ保全委員会（飯田市）  
 連絡先 0265-59-2003  
 ホームページ <http://www.chiyo-x.jp/yokoneta.html>

## 地元産そばを起点とする地域活性化プロジェクト (木曾のそば推進協議会)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

- ・木曾管内のそば生産者、そば店及びそば製粉・製麺会社並びに関係機関・団体等が連携した組織
- ・木曾産そばの生産性・品質向上対策や木曾産そばの PR 活動を行い、木曾地域の農業と商工観光業の振興を図る

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

| 活用年度 | 事業概要                             | 支援金額   |
|------|----------------------------------|--------|
| H27  | リーフレット等による PR 活動、そばの生産性及び品質向上対策  | 509 千円 |
| H28  | スタンプラリー等による PR 活動、そばの生産性及び品質向上対策 | 489 千円 |
| H29  | スタンプラリー等による PR 活動、そばの生産性及び品質向上対策 | 325 千円 |

### 最近の活動内容と今後の事業展開

木曾産そばが最も食べられる新そばの季節と、木曾の郷土食”すんき”が食べられる季節が重なることから、これらを対象としたスタンプラリーを開催している。

また、そばの更なる品質向上とブランド力向上を図るため、視察を行っている。

今後は、木曾産そばの更なる認知度向上とともに、地理的表示保護制度（GI）に登録となった”すんき”を活かし、PR 活動に取り組んでいく。



【スタンプラリー抽選会】

### 取組の効果

スタンプラリーにおいて、リーフレット・ポスター・のぼり旗の作成を行い、PR 資材として活用した。また、ホームページやメディアを通じた積極的 PR を行った。結果として、応募総数が大幅に増加しており、アンケートによると木曾地域への初めての来訪者も増加している。

このことから、木曾産そばの県内外への PR と知名度向上、木曾地域への誘客促進に対し、一定の効果が得られたと考えられる。

地理的表示保護制度（GI）に登録となった”すんき”と連携することで他地域には無い木曾ならではの強みとして PR できている。

### ポイント

他地域にはない強み（木曾地域では”すんき”）と連携する、活かすことで相互に PR できる。

団体名 木曾のそば推進協議会（南木曾町）  
連絡先 TEL：0264-25-228 FAX：0264-25-2250

## 高齢者向け地域支え合い事業

(シルバーカフェ)

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

独居老人と呼ばれる一人暮らしやまだまだ元気な高齢者を介護が必要にならないように地域で支え合う体制づくりは、国の押し進める施策です。

その先駆けとして2012年にシルバーカフェは誕生しました。普段のコミュニティカフェ以外にも高齢者の悩みに地域の企業と共に答えていく相談機能を備えるほか、全国的に問題となっている特殊詐欺の予防活動等を行っています。現在は松本市（会員550名）と安曇野市（会員250名）の2拠点で展開しています。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

| 活用年度 | 事業概要  | 支援金額    |
|------|---|---------|
| H25  | ・地域のボランティア講師による高齢者向け各種教室の開催<br>・シルバーライフ生き生きフォーラムの開催 | 1,323千円 |
| H26  | ・高齢者向け特殊詐欺勉強会の開催                                    | 1,679千円 |
| H27  | ・専門家と連携した塗り絵による認知症予防プログラムの開催                        | 1,587千円 |

### 最近の活動内容と今後の事業展開

歌声喫茶イベント（ホールを借り切り皆で歌を歌う＝昭和30年頃に人気のあった事業）を毎年1回ずつ、各拠点で開催しています。200名～300名ほどの方が来場し、感動して涙を流す高齢者もいます。

また、最近では、イスラエルの旅行者の受入先として活躍。おにぎり・みそ汁などの「日本のおふくろの味」を海外の方と一緒に作るなどして、皆様に喜んでいただいています。



【過去の生き生きフォーラムの様子】

### 取組の効果

今、一生懸命に取り組んでいることは2つ。①相談機能の強化＝地元の企業に協力を頂き、もっと高齢者の生活充実を図ろうと進めています。リフォームなど県外の悪質業者にだまされたという報告もあり、地元の会社の方々に協力頂き、相談機能の拡充を図っています。②新しい拠点作り＝シルバーカフェに興味を持ち、自分の地域でも作りたいという相談を多数頂いています。（長野市、茅野市、麻績村、南松本など）。しかし、市民有志の活動のため、なかなかその拠点展開が出来ていません。市民で気兼ねなく開設できるシルバーカフェを目指しています。

### ポイント

常に意識していたことは3年の猶予の中で、きちんと独り立ちできること。「元気づくりの支援が無くなったので事業を辞めます。」ということがないように、3年間地道な活動を行い、自立する体制作りにいそしみました。また、元気づくり支援金の活用にあたっては、「活動の認知」ということに重点を置きました。

3年間で「あ！知ってる」と市民の方々に言っていただけるように、新聞広告・チラシなどを作りました。また、必ずホームページを持った方が良いと思います。ホームページを見て、県外から多くの取材を受けました。「地域発！」にふさわしいように、国内そして活動は国外にも知れるものとなったと自負しています。

|         |   |
|---------|---|
| 団体名     | シルバーカフェ（松本市）  |
| 連絡先     | 0263-87-7816  |
| ホームページ  | <a href="http://www.silvercafe.jpn.com/">http://www.silvercafe.jpn.com/</a> |
| メールアドレス | mail@silvercafe.jpn.com   |
| 代表理事    | 北原 修  |



## 食用ホオズキによる地域特産品づくり事業

白馬サンサン会

## 団体紹介（私たちが目指しているもの）

食用ホオズキの栽培・販売に取り組む白馬村三日市場地区の女性グループです。食用ホオズキが白馬村の新たな食の魅力のひとつとなるとともに、つくる喜びや食べて美味しいと言ってもらえる喜びを得る活動をとおして、女性の地域コミュニティーの形成にもつながることを目指しています。地域の小学校等とも連携して、先生や児童にも特産品としての食用ホオズキを知ってもらい取り組みも行っています。有機肥料、無農薬での栽培管理、出荷前の1つずつの検品等を行い、量産体制とするのではなく、「北アルプス山麓ブランド認定品」として丁寧に届けたい生産と販売を心掛けています。

## 地域発 元気づくり支援金の活用状況

| 活用年度 | 事業概要  | 支援金額   |
|------|---|--------|
| H26  | 新たな特産品として試験的に取り組んでいる「食用ホオズキ」の本格的推進のため、各種媒体による宣伝と加工に必要な機器の購入を行う。     | 679 千円 |
| H27  | 地域の特産品をめざしている食用ホオズキの地域内の利用促進や村外へのアピールのため生産量拡大や栽培技術の研究、パッケージの制作等を行う。 | 874 千円 |

## 最近の活動内容と今後の事業展開

現在は、食用ホオズキ約 700 本を栽培し、新たに「白馬フィサリス」と名付けて、主に白馬村の道の駅での販売及び白馬村や北アルプス山麓ブランドとのタイアップによる各種行事等へ提供を行っています。会員が取り組むドライホオズキやホオズキのアイスクリーム等も地域に定着してきました。

また、平成 30 年の「おいしい信州ふーど商談会」をきっかけに、地域の特産品を提供する通販会社を通じて、少量ではありますがインターネット販売の体制も整えました。

今後は、各種商談会等に参加するとともに、少量生産の良さを生かした販路の確立や事業者と協力した土産品等の加工品開発に取り組むと考えています。



【2018 おいしい信州ふーど東京会場】

## 取組の効果

各種イベントにおける振る舞いの提供等とおして、地域の特産品としての認知度が高まってきており、観光で訪れた方だけでなく、地域の方にもお土産品として購入いただいています。

また、独自で食用ホオズキを栽培して食事等で提供する宿泊施設や、個人で生産して道の駅等で販売する方が出てきており、地域の特産品づくりの機運の醸成に繋がっています。

## ポイント

- ・ 高齢化により脱会する会員もおり、食用ホオズキ栽培に関わる人員の確保が課題ですが、苗の定植や収穫時など繁忙期のみ作業を手伝っていただける方の協力を得るなど、人員の確保について工夫しています。
- ・ 作業効率を上げるため、また、労働量の軽減化のため、枝の誘引を、1本ずつの吊り上げ方式からネット方式に変更するなど栽培方法の研究、工夫を重ねています。
- ・ 地域の小学校の先生や児童との連携・交流を通じて、地域の特産品としての食用ホオズキの生産や特徴を知ってもらい機会を得ていますが、地域との連携については更に強化していきたいと考えています。
- ・ 会員の中から独立して個人で大規模に生産・販売に取り組む人が出ました。地域に食用ホオズキが広がることなので喜ばしいことであり、今後もそういう人を輩出できるように新規会員の確保に努めていきたい。

団体名 白馬サンサン会  
連絡先 代表：篠崎久美子 携帯：090-4700-7835

**～信州発！一杯の味噌汁プロジェクト～**  
**～すべては愛から始まる～**                      **(ながの協働ねっと)**

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

ながの協働ねっとは、長野の未来を創るみなさんの新しいコミュニティである。

NPOがコーディネート役となって、NPO同士はもちろん、市民・企業・行政・起業家らとも交流を行いながら、様々な協働事業を行っている。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

| 活用年度 | 事業概要  | 支援金額   |
|------|---|--------|
| H27  | <p><b>【信州発！一杯の味噌汁プロジェクト事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「みそフェスタ 2015 in 長野」の開催<br/>味噌の良さ（おいしさ・効力）を知る機会を提供。<br/>450名の市民が参加し交流を深めた。</li> <li>「みそボールちゃん」体験ワークショップの実施<br/>楽しみながら手軽に「味噌汁」が飲めるアイデアを提供。評価は高く、多方面からの出店依頼があった。</li> <li>みそ仕込み体験イベントの開催<br/>仕込み味噌の美味しさや、実はシンプルな味噌の作り方を多世代の参加者に伝えた。</li> </ul> | 658 千円 |

### 最近の活動内容と今後の事業展開

みそフェスタの初年度開催にあたり事業を活用した。

2年目以降は会場を善光寺大勧進に移し、集客対象として地域住民に加え観光客も取り込んできたことで、集客数は年々増加し、昨年の平成 29 年度は 700 人の市民や県外観光客で賑わいを見せた。

平成 30 年度は、11/10（土）に「第 4 回みそフェスタ 2018in 善光寺～すべては愛からはじまる～」の開催を予定。ながの協働ねっとの別事業

「地域まるごとキャンパス」を活用しながら、20 名以上の市内学生ボランティアが参画予定である。学校単位での企画も受入れており、次世代への活動継承も視野に取組みを行っている。



**【全国に広がる協働の輪】**

### 取組の効果

事業成果を上げてきたことで、長野味噌醤油工業協同組合を通して、全国組織である「みそ健康づくり委員会」から継続的な支援を受けている。

また、メディアなどを通して活動を広く発信してきたことで、県外活動者とのネットワーク構築につながり、広島県では同様のみそイベントが平成 30 年度に開催されるなど波及効果が見られた。

### ポイント

NPO食育体験教室・コラボの提案で、地域の食文化（みその素晴らしさ）を伝え、子どもたちの育ちを応援する事業として立ち上げたプロジェクト。

ながの協働ねっとの広いネットワークを活かし、様々な人・団体がそれぞれの特性を活かし行う協働プロジェクトであることが大きなポイントであり、現在、協働の輪は全国に広がりを見せている。

|         |   |
|---------|---|
| 団体名     | ながの協働ねっと（長野市）   |
| 連絡先     | ≪事務局≫<br>市民協働サポートセンター<br>TEL 026-223-0051<br>FAX 026-223-0052 |
| メールアドレス | npo@nagano-shimin.net   |

## 温井里山活性化事業（温井村づくり委員会）

### 団体紹介（私たちが目指しているもの）

長野県と新潟県の県境、飯山市の北東に位置する集落・温井（ぬくい）は日本でも有数の広大なブナ林・なべくら高原の入口にあり、多い年には4mの雪が積もる豪雪地である。約80戸170人の住民のうち約半数が高齢者で、限界集落への不安を抱える小さな集落だが、四季の移り変わりを肌で感じられることから集落外からの移住者も多く、女性が中心となって「おんなしょ」の視点で地域の活性化に取り組んでいる元気な「むら」である。

### 地域発 元気づくり支援金の活用状況

平成22年には農産物直売所を建て替え、区民が総出で農産物直売所周辺と地区の道路（みゆき野ライン）の花植えと管理を実施した。地区の新鮮な野菜を直売することで生産者と消費者の交流が生まれ、また、地元の高校の協力により特産品としてコケ玉「森彦」を開発・販売するとともに、温井みどころマップを制作し、直売所と温井地区の魅力を発信している。

平成27年には直売所を利用する観光客等からの要望に応え、集落内の空き寺（大応寺）を「カフェ」として改修し、ヨガなどのイベントに合わせて軽食を提供した。

| 活用年度 | 事業名         | 事業概要  | 支援金額    |
|------|-------------|---|---------|
| H22  | 温井里山活性化事業   | ・みどころマップ印刷（120千円）、植栽（62千円）、<br>・直売所設置費（2,362千円） | 1,756千円 |
| H27  | 続・温井里山活性化事業 | ・厨房設備（594千円）、お堂改修（680千円）<br>・ヨガ等講師謝金（15千円）      | 917千円   |

### 最近の活動内容と今後の事業展開

○直売所は「ぬくい自由きままな仲間市」と名づけ、スイカやアスパラガスなど地域自慢の農産物で規格外のものを中心に低価格で販売している。10月までの毎週土日・祝日、お盆のみの営業だが、信越トレイルの拠点「なべくら高原・森の家」への観光客を中心に多くの方に利用していただいている。

○稲わらを使った冬の手仕事を復活させ、地域のお年寄を中心に特産品化に取り組んでおり、ストラップ等アクセサリとして人気が出てきている。

○お堂を改修し、ヨガやわら細工のイベントを開催、地元産の野菜や米粉を使ったピザなどを提供した。



【集落カフェ】

### 取組の効果

○平成28年度にはカフェ「ギャルリかざはな in 大応寺」として毎月第2金曜日にオープンし、「なべくら高原・森の家」との連携により集落の第2の交流拠点となりつつある。また、集落の茶道サークルの拠点としても活用し、集落内の活性化を図っている。

○大応寺の裏にはブナの木が生い茂り、老杉の残る大門など癒しの場所としての価値も認識されている。

### ポイント

○温井むらづくり委員会では、集落に住むすべての人がそれぞれに関われる活動を中心に考えている。集落のお年寄が喜び、元気であることが、集落外の人々を引き寄せ、活性化に繋がるという思いで活動している。



【わら細工のストラップ】

|     |                |
|-----|----------------|
| 団体名 | 温井村づくり委員会（飯山市） |
| 連絡先 | 会長 村山 由美子      |
| 電話  | 0269-69-2773   |